

春風秋霜 8月号

令和4年8月21日
島田市教育委員会だより
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 未来にはばたく子ども達

8月18日の新聞に、『小3（9歳）藤田君 囲碁プロに』という記事が載っていました。その記事の内容を下に書かせていただきます。

小三(9歳)藤田君 囲碁プロに

最年少、仲邑二段の10歳0カ月更新

囲碁の関西棋院は17日、小学校3年生の藤田玲央（れお）君（9）が史上最年少の9歳4カ月でプロ棋士の初段になると発表した。9月1日付のプロ入りは、2019年に日本棋院の英才特別採用で棋士になった仲邑菫（なかむらすみれ）二段（13）の10歳0カ月を更新する。藤田君は日本棋院とは別団体の関西棋院が今年、新たに設けた英才特別採用試験を受験し、初の合格者となった。

藤田君は大阪市出身。4歳で囲碁を始め、子ども大会で活躍。以後道場などに通い、小学1年生からは日本棋院でプロ候補生の「院生」となって、腕を磨いた。採用試験では、瀬戸大樹八段（38）と試験碁を行い、その内容などが審査され、プロ入りが決まった。大阪で記者会見した藤田君は、今後の目標に世界一を掲げて、「頑張ります」と恥ずかしそうに抱負を述べた。

関西棋院によると、藤田君は囲碁の先進国・地域の中国、韓国、台湾を含めても最年少でのプロ入り。関西棋院は国内プロ2団体の1つで、第一人者の井上裕太四冠（33）は日本棋院の所属。現在、七大タイトルを保持する棋士はいないが、王座、十段のタイトル獲得実績を持つ村川大介九段（31）らが所属している。

<出展 令和4年8月18日(木) 静岡新聞 朝刊より>

このような記事が掲載されていました。

10才の仲邑さんが、プロになった時も驚きましたが、小学校3年生の藤田君が、プロ棋士になることがすごいと思いました。将棋の世界では、藤井聡太さんが、大活躍をしていますし、囲碁の世界でもたくさん若い人たちが活躍していて、とてもうれしいことだと思います。

今回、記者会見の中で、いろいろな方が藤田君のことをコメントしていました。試験対局をされた瀬戸八段は、「すぐにプロの世界で活躍することは、難しいかもしれないが、将来性を見て推薦させていただきました。」というお話をされていました。また、お父さんが、親としての心境を問われたときに「今までの成長を見てみると、囲碁のことに関しては、今まで乗り越えてきているので、最初は、勝てないこともあると思いますが、親としては息子を信じて応援するしかないと思っています。」と答えていました。親は、子供が選んだ道を信じて応援していくことが大事だということあらためて感じました。藤田君は、4歳の時に出会ったオセロから囲

碁という世界に入っていったそうです。今回、囲碁のプロという道を選んだわけですが、悩んだり迷ったりすることもあるかと思いますが、これからの道を頑張っていて欲しいと思います。

「夢から始まる！！」学校にいるときに、私が子供たちに言ってきた言葉です。小さい頃から夢や目標をもっていれば、それに向かって努力することができます。島田市の子供たちも、自分の夢や目標をもって、それに向かって頑張っていて欲しいと思っています。島田市教育委員会として、「夢育・地育」に力を入れていきます。

2 江戸しぐさについて

前回、『江戸しぐさ』についてお話をしましたが、『江戸しぐさ』は奥が深いので、今回も、『江戸しぐさ』について、少し書いてみたいと思います。

前回も書きましたが、『江戸しぐさ』は、当時の人たちが、気持ちよく過ごすための知恵だと言われています。最近では、自分のことを主張することが大切だという風潮がありますが、生きていくうえで、人への思いやりはとても大事なことです。

<うかつあやまり>

- ・人に足を踏まれるような迷惑をかけられたときも、それを避けられなかった自分もうかつでしたと謝るしぐさ。

<こぶし腰浮かせ>

- ・乗合船で、あとから乗ってきた新しい客のために、腰かけている先客が軽く腰を浮かせ、少しずつ幅を詰めながら、一人分の座る空間をつくっていくこと。

肘かけ椅子

「女子野球に期待」

学校給食課長 天野幸治

夏の甲子園高校野球選手権大会を前に、7月22日から第26回全国高校女子硬式野球選手権大会が兵庫県で開幕した。静岡県からは創部3年目の東海大学付属静岡翔洋高校、創部1年目の相川学園静清高校とオイスカ浜松国際高校の3校が出場した。地方予選がなく部員が11人そろえば出場できるが、静岡翔洋高校はベスト16、静清高校は1年生チームながら初戦を突破し優勝校に敗戦したものの大活躍だった。

静岡県内は、小・中学生年代で女子選手が比較的多いと言われているが、高校で野球を続ける環境がなく県外高校に進学するケースが多かった。3チームの創部により受け皿ができたことは喜ばしく、県内高校女子野球部の飛躍を見守っていきたい。

7月24日に焼津球場で開催された静岡県中学校総合体育大会の軟式野球の部の1回戦、初倉中・川根中の合同チームの試合を観戦した。攻守のバランスが良く4対0で完勝だった。合同チームのセカンドは女子選手で、後半戦にはピッチャーとしてマウンドに立ち、堂々としたピッチングだった。(チームの最終成績はベスト4)また、スタンドに目を移すと、次の試合を待つ選手の中に女子選手を見かけた。2人とも少年野球かソフトボールをやりながら競技を続けてきたのであろう。女子野球の普及はこれからとなるが、高校女子野球部を目指す小・中学生が増えるとともに、好きな野球を長く続けられる環境を大切に育ててほしいと切に思う。